

義援金、寄付金

熱い支援に感謝

寄せられた義援金
1,173 件
8,964 万 4,467 円
 (12月10日現在)

全国各地から義援金、寄付金が寄せられました。ご支援ありがとうございます。

11月11日～12月10日受付分
 (敬称略)

義援金

- 県外 ■
- 【千葉県】
- ▶ 清水将夫
- 【東京都】
- ▶ 五味秀春 ▶ 庄司正義
- 【神奈川県】
- ▶ 神林洋行
- 県内 ■
- 【個人】
- ▶ 遠藤匡俊
- その他 ■
- ▶ 匿名 1 件

寄付金

- 県外 ■
- 【山形県】
- ▶ 後藤大輔
- 【埼玉県】
- ▶ 下村清一郎
- 【千葉県】
- ▶ 清水将夫
- 【東京都】
- ▶ アサヒグループホールディングス(株)
- ▶ 小金井市観光協会第46回 小金井お月見のつどい実行委員会
- ▶ 前澤化成工業(株)
- ▶ 藤森安秋 ▶ 山田和美
- 【神奈川県】
- ▶ 奥本満
- 市内 ■
- 【団体】
- ▶ 田村牧場直営店焼肉たむら屋
- その他 ■
- ▶ 匿名 4 件

本田技研労働組合が発電機を寄贈

発電機 4 つの施設で活用



寄贈された発電機と前田執行委員長(左)

被災地支援活動を行っている本田技研労働組合(仁藤康雄中央執行委員長)が、市に小型発電機4台を寄贈。11月25日、同栃木研究所支部の前田了二執行委員長ら3人が市役所を訪れ、山内隆文市長に贈呈しました。

前田委員長は「組合員や従業員の善意が込められた発電機です。有効にご活用ください」とあいさつ。山内市長は「長時間の停電を経験した私たちにとって、発電機は大切な機材です。温かい支援をありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えました。

組合員らが働く栃木県の事業所では、東日本震災で従業員1人が亡くなったほか、30人以上がけがを負う被害がありました。同組合では事業所の復旧が落ち着いたことから、東北3県への支援活動を開始。いわて未来づくり機構を通じて支援の希望を募り、今回の寄贈に至りました。

発電機は、元気の泉、中央公民館、小久慈公民館、宇部公民館に設置され、災害発生時や施設の事業などに活用されます。

久慈川幹線水路のアドプト活動協定を締結

地域活動の活性化に期待



市内での清掃活動の様子

アドプトとは「養子縁組」のこと。道路や水路などの公共施設の一部区域や区間を「養子」とみなし、住民や団体、企業などが「里親」となって清掃や美化活動を行う制度です。アドプト制度によって、農業者の高齢化や後継者問題などによる施設の管理能力不足が改善。団体や企業の社会貢献活動の場として利用されるほか、地域住民の活動の活性化も期待されています。

調印に先立ち、山内隆文市長は「活動を通じて、地域活動の活性化や、社会貢献活動への関心が高まることを期待します」とあいさつ。砂子理事長は「芽生えてきた協働の精神を大切に育んでいきたい」と力を込めました。

続いて協定書への署名・調印が行われ、藤森社長は「清掃活動を中心に、責任を持ち、末永く取り組んでいきます」と意気込みました。

同協定は平成15年度から岩手県が取り組んでいるもので、これまでに県内で184協定の締結を支援し、久慈管内では3件目の締結となります。

今後、同改良区の久慈川1号幹線水路9・2キロのうち、旭町地内の400メートルの維持管理を藤森測量設計が行います。収集されたごみの処理などは市が行っていきます。

市と久慈市土地改良区(砂子友男理事長)は11月26日、幹線水路の一部区間の保守や管理の役割分担について、株式会社藤森測量設計(藤森義浩代表取締役社長)とアドプト活動協定を締結。市役所で行われた調印式には、三者と県の関係者など約10人が参加しました。



調印後、握手をする藤森社長(左)ら

久喜地区に市最初の災害公営住宅が完成

新居で迎える新年



山内市長から鍵のレプリカを受け取る入居者の中谷直樹さん(手前) 親子

集団移転事業として整備した最初の災害公営住宅が宇部町久喜地区に完成。12月15日、関係者ら約30人が出席し、竣工式が行われました。

式では山内隆文市長が「これから防災に強いまちづくりを、市民の皆さんと一緒に進めていきます」とあいさつ。来賓のあいさつに続いてテ-

プカットと鍵の引き渡しが行われました。

式典後は関係者らが完成した住宅を見学。入居予定者の坂本寿鶴子さんは「新年を新居で迎えられることになり、うれしいです。長いようであつという間でした」と住宅の完成を喜び、復興までの2年半を振り返りました。

市では、本年度中の完成を目指して、長内町元木沢地区と久慈湊・大崎地区で同様の住宅整備を進めています。

災害公営住宅の概要
 ~久喜地区~

- 場所...宇部町 20 地割内
- 敷地面積...約 498㎡
- 整備戸数...3 戸 (木造 2 階建 3DK 2 戸、木造平屋建 2DK 1 戸)
- 住宅工事費...5,251 万円
- 工事期間...平成 25 年 8 月 8 日～12 月 25 日

八戸・久慈自動車道整備促進住民大会

早期完成を願い一致団結



早期全線完成への思いを発表した外館祐亮さん(久慈高3年)

八戸・久慈自動車道整備促進住民大会(八戸・久慈自動車道整備促進住民会議主催)は12月1日、アンバーホールで開催。八戸市から普代村までの沿線6市町村から約900人が参加し、復興道路の早期完成による地域の復興と活性化を願い一致団結しました。

住民大会に先立ち、国土交通省東北地方整備局の川崎茂信道路部長が講演。八戸・久慈自動車道をはじめとする復興道路・復興支援道路の整備の状況などを説明しました。

大会のオープニングセレモニーでは沿線市町村の小学校の児童6人が「私達の未来を拓く道づくり」と題して一人一人メッセージを提唱。山内隆文市長など沿線6市町村長は、地域が期待する早期開通に向けて頑張ることを誓い、

三陸沿岸地域の早期復興のため「復興道路」として事業化された三陸沿岸道路。八戸・久慈自動車道は、その先導区間として開通へ向けた作業が続いています。

国は10年以内の完成を目指していますが、整備には地域全体の行動が必要です。これからは道路の必要性と早期完成を強く訴えていきましょう。

子どもたちとつないだ手を高く掲げました。

同大会ではポスターコンクール表彰式や、久慈高校の生徒による意見発表も実施。最後は道路の早期整備を要望する大会決議を参加者全員が拍手で承認し、掛け声三唱で締めくくりました。



「がんばろう！」と力強く拳を突き上げる参加者